

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1089 号	氏名	渡邊 洋之助
学位審査委員		主査	李 桃生
		副査	酒井英樹
		副査	江口 晋
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究はラット肺移植モデルを用いて、脂肪由来間葉系幹細胞 (ADMSC) 投与による移植肺の急性拒絶抑制効果を検討した。その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 Brown Norway ラットをドナー、Lewis ラットをレシピエントとして、同所性左肺移植を行った。移植直後に Lewis ラット腹部脂肪由来の ADMSC (<math>1.0 \times 10^6</math>) を経静脈的に投与し、免疫抑制剤は移植後から連日タクロリムス (0.5mg/kg) を筋肉内に注射した。移植後 1, 3, 7 日目にラットを犠牲死させ、移植肺の拒絶の程度は組織学解析で定量評価し、血清中 HGF 濃度は ELISA 法で測定した。また、移植肺における HGF 受容体である cMet の発現、樹状細胞の活性化および投与した ADMSC の集積状況については免疫染色やウェスタンブロット法で評価を行った。これらの研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 ADMSC の単独投与では移植肺に有意な免疫抑制効果は観察されなかったが、タクロリムスとの併用ではタクロリムス単独投与よりも移植肺の拒絶反応が有意に抑制された。また、タクロリムス単独投与群と比べ、ADMSC とタクロリムスの併用は、治療後 3, 7 日目に血清中 HGF 濃度が有意に高値を示し、移植肺における cMet 発現の増加および樹状細胞活性化の抑制も認められた。ADMSC と免疫抑制剤の併用による移植肺の急性拒絶抑制効果を証明できた本研究の意義は極めて高いと考える。</p> <p>以上のように本論文は、臓器移植関連分野に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			